2026 年度第 1 回 PF-UA 幹事会・運営委員会　議事録

日時：2026 年 8 月 4 日（水）
　　13:00 － 15:03（幹事会・運営委員会）
場所：Zoom 会議

出席者：
［幹事・運営委員］：
近藤 寛（会長），朝倉 清高，雨宮 健太，植草 秀裕，宇佐美 徳子，帯名 崇，久保 友明，栗林 貴弘，小林 寿夫，佐々木 大輔，篠崎 彩子，千田 俊哉，田中 信忠，手塚 泰久，長坂 将成，八方 直久，伏信 進矢，藤井 健太郎，松垣 直宏，姚 永昭，山﨑 信哉，山本 勝宏，横谷 明徳，横山 英志，吉田 真明
船守 展正（物構研所長），五十嵐 教之（放射光実験施設長），松田 巌，小谷野 美紗

［委任者］：
阿部 善也，鍵 裕之，栗栖 美菜子，玉田 太郎，彦坂 泰正，森田 剛，米山 明男，西脇 芳典

【紹介】佐々木大輔先生の幹事就任，宇佐美徳子先生および松垣直宏先生の運営委員就任，ならびに松田巌先生の次期会長就任を紹介した。
【定足確認】委任状 9 件を含め，幹事会・運営委員会ともに定足数を満たし，本会が成立したことを確認した。（吉田 庶務幹事）
【会長挨拶】（近藤 会長）
【所長挨拶】（船守 所長）
【施設報告】（五十嵐 施設長）

【報告事項】
・施設報告（吉田 幹事）
　2026 年度 PF-UA 学生論文賞の募集要項および申請書の変更点を報告した。また，PF-UA 研究会活動支援の内規と申請書・報告書の整理について説明した。
・会計報告（吉田 幹事）
　2025 年度会計最終報告および 2026 年度予算案について報告した。また，タンパク質結晶構造解析 UG からの講習会講師旅費補助依頼について説明した。
・行事報告（高草木・藤井 幹事）
　量子ビームサイエンスフェスタにおける UG ミーティング会場費等の負担，および学生奨励賞受賞者の懇親会参加費の負担見直し案について報告した。
・広報報告（植草 幹事）
　新 PF-UA ホームページの運用状況，賛助会員ページおよび各 UG ページの整備状況について報告した。
・戦略・将来計画検討報告（横谷・高橋 幹事）
　BL-11A・11B 完成報告会，量子マルチビーム共創拠点（MB-LINQ）計画の進捗，ならびに 2027 年 1 月に予定するマルチビーム利用に関する PF 研究会等について報告した。
・推薦・選挙管理報告（山﨑・栗栖 幹事）
　今年度実施する PF-UA 運営委員会選挙の日程案およびオンラインによる推薦・投票方法について報告した。
・教育報告（長坂 幹事）
　第 4 回 PF-UA サマースクール「加速器から物質・生命科学まで」を 2026 年 10 月 22 日に Zoom で開催すること，および準備状況を報告した。

【今年度の活動について】（近藤 会長）
　PF 将来計画の支援，新ホームページの活用，UG 活動の促進，サマースクール・学生論文賞の実施，PF ユーザー環境の向上等について説明し，意見交換を行った。

【次回日程について】
　第 2 回幹事会・運営委員会は，2026 年 11-12 月頃にオンラインで開催し，進捗状況，PF-UA のつどい・PF 研究会の準備，今後の課題等を確認する予定とした。

2026 年度 PF-UA 学生論文賞募集のご案内

PF ユーザーアソシエーション（以下：PF-UA）は，放射光科学の未来を担う優秀な若手研究者の輩出と，PF を活用している博士課程学生の研究の奨励を目的として，2022 年度に「PF-UA 学生論文賞」を創設しました。本賞は，PF を活用して得られた研究成果を含む論文を広く対象とします。PF における新規の測定法や解析法の開発に貢献した成果はもちろんのこと，既存の測定・解析法を用いて特定の分野で顕著な成果を挙げた研究も対象となります。

つきましては以下のとおり募集致しますので，ご応募下さいますようお願いします。

1. 人数
3 名以内とします。

2. 対象
応募者が自ら PF を活用して当該期間（2025 年 12 月～2026 年 12 月）に発表した査読付英文誌（accept 含む）で，原則として応募者が first author であること。応募時点あるいは対象論文投稿時点で，博士課程学生（博士後期課程学生）。

3. 募集期間
2026 年 9 月 15 日（火）～ 2026 年 12 月 11 日（金）必着

4. 応募方法

別紙の応募用フォーマット（https://www.pf-ua.jp/katsudo/ronbunsyou/ よりダウンロード可能）に必要事項を記入のうえ，対象となる論文の電子ファイルと合わせて，下記の応募先にメールにてご送付ください。なお，原則として候補者本人からの自薦のみを受け付けますが，研究指導教員の推薦文（応募論文における当該学生の寄与に関する所見を含む）の提出が必要となります。

5. 応募先

PF-UA 事務局（pfua-office-at-pfiqst.kek.jp）
（-at- を @ にしてお送りください）
※メールの件名を「2026 年度 PF-UA 学生論文賞応募」としてください。

6. 選考・通知方法

PF-UA 幹事会・運営委員会に選考委員会を設け，厳正な審査と選考により，2027 年 1 月中に受賞者を決定します。選考結果について，1 月末日までにご登録いただいたメールアドレス宛にご連絡させていただきます。

7. 賞与

賞状および副賞 10 万円を受賞者本人に贈呈いたします。

8. 発表等

2027 年 3 月開催予定の「2026 年度量子ビームサイエンスフェスタ」内の「第 44 回 PF シンポジウム」にて，受賞者名および対象となった論文を発表いたします。同シンポジウムに受賞者本人が参加できる場合には，授賞式および受賞講演を行う予定です。また，「PF ニュース」に対象論文に関する紹介記事の執筆をお願いいたします。

9. 担当

庶務幹事　吉田真明

第 4 回 PF-UA サマースクール「加速器から物質・生命科学まで」開催報告

分子科学研究所　長坂将成

第 4 回 PF-UA サマースクール「加速器から物質・生命科学まで」を，2026 年 10 月 22 日（木）にオンラインで開催しました。本サマースクールは，PF-UA 教育小委員会が企画しているもので，若手研究者，大学院生，大学生などの放射光初学者向けに，放射光を用いた分析技術の測定原理や測定方法などを学ぶ機会を提供すると共に，中堅の研究者の方々が新たな研究を始める機会を提供することを開催趣旨としています。第 1 回のサマースクールでは，「放射光分析手法の初学者向け勉強会」として，放射光初学者向けに様々なＸ線分析技術を学ぶ機会を提供することを目的としました。第 2 回のサマースクールでは，「放射光の特長を活かした分析手法」として，偏光スイッチングや放射光のバンチ構造を用いた時間分解計測などの，放射光の特長を活かしたＸ線分析手法を学ぶことを目的としました。第 3 回のサマースクールでは，「広がる放射光の利用研究」として，原子分子科学，次世代デバイス開発，高圧科学，Ｘ線位相イメージングなどの様々な分野で行われている放射光の利用研究を学ぶことを目的としました。第 4 回となる本サマースクールでは，加速器を用いた放射光発生の基礎から，軟Ｘ線顕微鏡，高圧下のＸ線回折，タンパク質の溶液小角Ｘ線散乱，タンパク質のＸ線構造解析などの，放射光を用いた物質・生命科学の分析手法の基礎と応用について学ぶことを目的としました。

サマースクールの前半部分は，実行委員長である長坂による開催趣旨と講演プログラムの説明から始まりました。阿達正浩先生（KEK）からは，放射光の発生の原理や異なる種類の加速器の特徴について，丁寧に説明して頂きました。放射光を利用する研究者にとって，放射光の基礎を理解する良い機会になったと思います。坂田昂平先生（東京電機大学）からは，軟Ｘ線顕微鏡の基礎と応用についてご説明を頂きました。局所的な構造解析を行う顕微測定は平均組成を反映しない可能性があるため，広い空間領域を観測できる通常の XAFS 測定と比較することの重要性が理解できました。今村比呂志先生（富山県立大学）からは，タンパク質で構成するバイオ医薬品の原理と溶液小角Ｘ線散乱による構造決定についてご説明を頂きました。小角Ｘ線散乱から得られる距離分布関数と分子動力学計算を組み合わせることで，溶液中の複雑なタンパク質の構造解析が行える点に感銘を受けました。

後半の部では，田辺幹雄先生（KEK）から，タンパク質のＸ線構造解析の原理と，生物学において生体分子の構造決定がなぜ重要かについて，ご説明を頂きました。生体分子の構造を決める意味について考える話が，これから構造生物学を志す学生の方にとって，とても有意義であったと思いました。小松一生先生（東京大学）からは，Ｘ線回折を用いた高圧科学について，ご説明を頂きました。新しい

状態の氷の構造など高圧科学の特徴的な現象が良く理解できました。ビームラインや装置を直接ご紹介いただき，学生の方も装置の制約やそれを克服するための工夫が必要なことが良く分かったと思います。五十嵐教之先生（PF 施設長，KEK）からは，PF 施設の現状と量子マルチビーム共創拠点の計画についてご説明を頂きました。BL-11 で推進するマルチビームの要である，軟Ｘ線と硬Ｘ線の 2 ビーム同時利用実験で展開する新しいサイエンスの内容に感銘を受けました。

本サマースクールに参加登録された方は 123 名おられました。前々回（70 名），前回（100 名）と回を重ねるごとに参加者が増えていて，シリーズ化することで PF-UA サマースクールの認知度も上がってきたと思います。本サマースクールでは，PF-UA 事務局の小谷野美紗さんに，ホームページの作成や参加登録のフォーム作成など，多くのご協力を頂きました。五十嵐先生には，オンライン会議のための Zoom の設定を行って頂きました。また，教育小委員会の先生方には，プログラムの作成や座長など多くのご協力を頂きました。講演された先生方には，分野外の方にも分かりやすい内容で，放射光の基礎から放射光を用いた様々な分析手法についてご説明を頂きました。厚く御礼を申し上げます。私が実行委員長のサマースクールはこれで最後になりますが，来年度以降も PF-UA サマースクールが盛況に開催されることを期待しています。本サマースクールのプログラムの詳細は，Web ページ (https://www.pf-ua.jp/katsudo/summer/20260721-1/) をご参照ください。